

2024/06/12(水)

第71回九州児童福祉施設職員研究大会（長崎大会）

第4分科会

『当事者の視点から、明るい未来のため
に確かな現在をサポートする』

社会福祉法人 甘木山学園 理事

こども家庭支援センターあまぎやま センター長

熊本県児童家庭支援センター協議会 会長

坂口 明 夫



対人サポートは、消耗戦です

セルフケアと

自分への応援も忘れないこと

大事 です



アドミッションケア

入所前の丁寧な関わり
【地域支援】
※市町村との連携

インケア

心身が健やかに成長
できるように様々な支援
【安心・安全な日常生活】
※ケアニーズの高いとは何か？

社会的養育

アフターケア

施設等を退所(自立)した
こどもたちへの支援
【18歳~22歳まで
自立支援強化】
※R6児童福祉法改正

リービングケア

施設等を退所(自立)する
前の準備期間に行う支援
【環境の変化に備えること】
※自立とは何か？

自立とは

他への従属から離れて独り立ちすること。他からの支配や助力を受けずに、存在すること。
【小学館】



孤立（独りでがんばれと聞こえる）

経済的

生活的

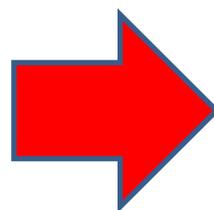
精神的

弱さ 分からなさ 頼れる人 頼れるタイミング
を分かることが 自立

適切なタイミングで

S O S

を出せる力



受 援 力

（ 支援を受ける力 ）

受援力

(受縁力)

困った時に助けてと言える力

自分に必要な助けが、何かを具体的に伝え、支援を受けるという力

人に迷惑をかけてはいけない

(申し訳ない事ではない)

周りに助けを求めず、自分で何とかしなければならない (孤立するかも)

自分で問題を解決できない = 能力の低い人間 (恥ずかしい事ではない)

支える側が「大丈夫？」とは聞かないこと

そして「大丈夫ではない」と言えるチカラ

私の原動力

実親が分からない

虐待を受けてきた

家庭を知らない

誕生日が分からない

だから我が子には、**絶対**同じ想いをさせない
我が子だけでなく子どもたち（次世代を担う）

なぜ生きることができた (今だから思うこと)

違いを知る

- 我が家の普通≠一般的な普通
違いを認め合う社会を作ろう
【困り感を大事にアセスメント】

ものさし

言語化

- 怒りを言語化(願望を整理)
気持ちをなぞる・なぞられる
【子どもアドボカシーの推進】

傾聴・対話

信じてても…

- 等身大で向き合う大人の存在
「分からない・知らない」大事
【守られる経験→守りたい人】

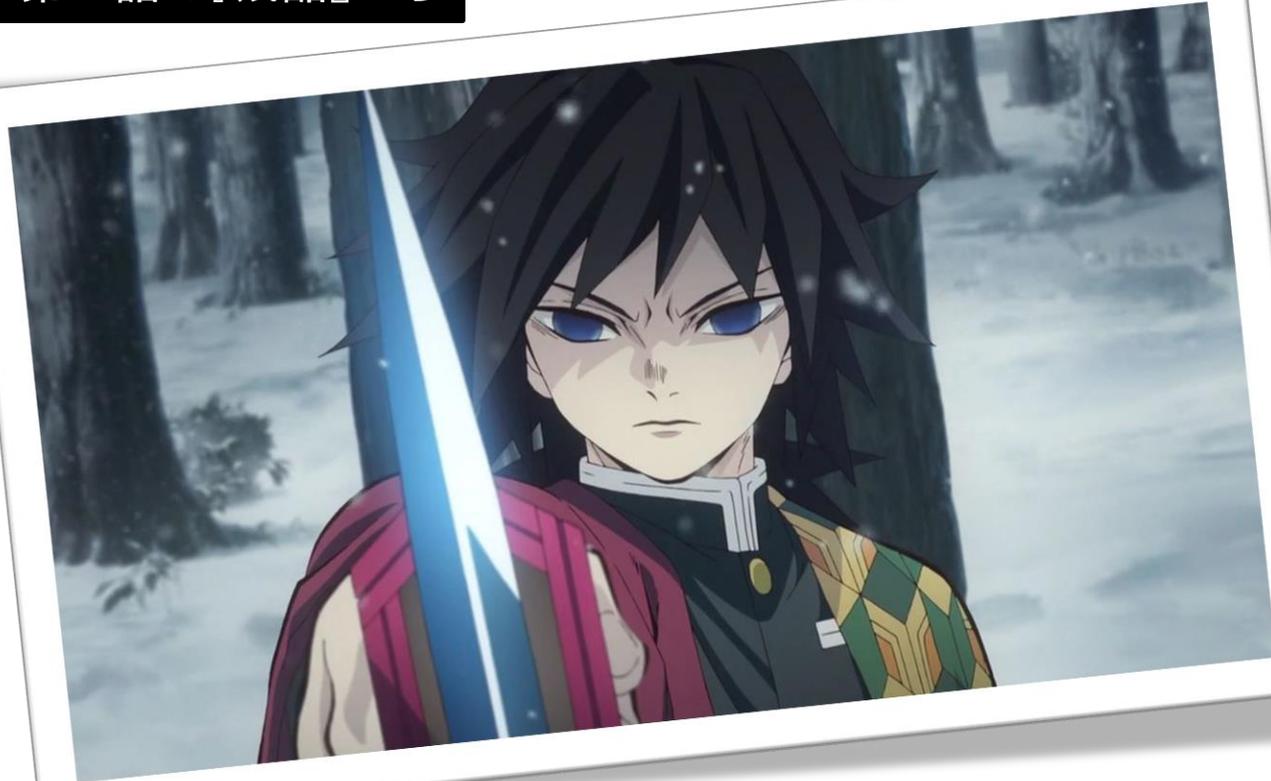
心の住人

怒(おこ)れ!!

許せないという強く純粹な怒りは

手足を動かすための揺るぎない**原動力**になる。

第一話の『残酷』から



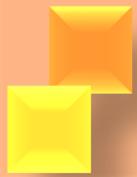
【変換(変感)力】

『怒る』 ⇒ 『真剣』

『緊張』 ⇒ 『本気』

『疲れた』 ⇒ 『がんばった』

『つまづく』 ⇒ 『成長』



KEY WORD

支援は始縁

想



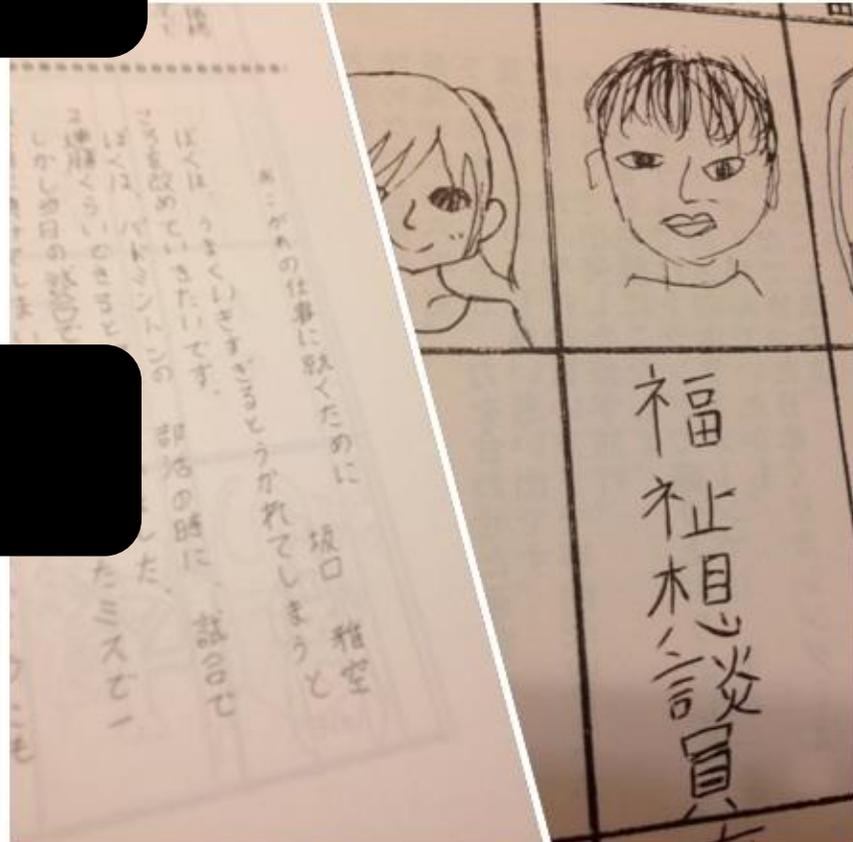
支援は想像力



相手を想う心

想談員

支援は両想い



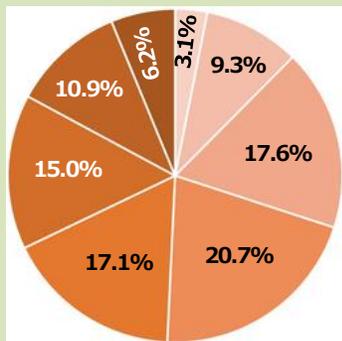
アフターケア・インケアに関するアンケート調査

2023(R5)年度 熊本県社会的養護自立支援実態把握事業 報告書概要版

A ftercare 退所者調査

回答者
193名

児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設、里親、ファミリーホーム、自立援助ホームを過去5年(2018年度～2022年度)に退所した、15歳以上の義務教育を終了した者



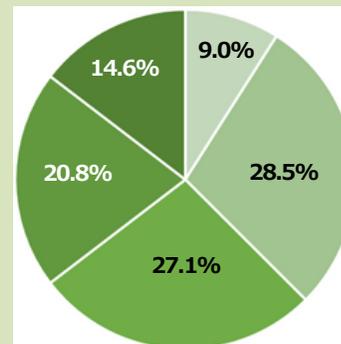
- 17歳以下
- 18歳
- 19歳
- 20歳
- 21歳
- 22歳
- 23歳
- 24歳以上



I ncare 入所者調査

回答者
144名

児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設、里親、ファミリーホーム、自立援助ホームに入所中の15歳以上義務教育を終了した者



- 15歳
- 16歳
- 17歳
- 18歳
- 19歳以上



次頁から「2020年全国調査」との比較があります。「2020年全国調査」とは、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が行った、『令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業費補助金』の採択案件の成果報告書内「施設や里親家庭等で生活していた人の生活やサポートに関するアンケート調査」のことを指しています。

https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210528.pdf



進路

■ 退所直後の進路



未定 4.1%

その他 3.6%

就職 51.8% **進学 40.4%**

『2020年全国調査』では、全国に比べ熊本県は就職が多く、進学が少なかった。今回の調査では進学が増加(+15.1ポイント)。

学校

■ 現在学校に通っている 25.4%

■ 通っている学校



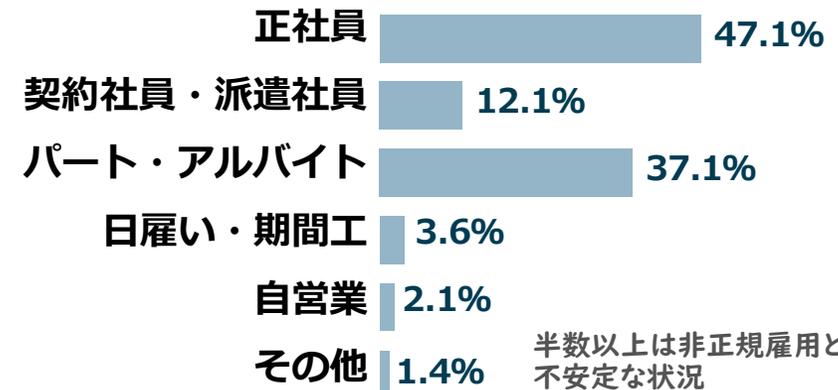
『2020年全国調査』の熊本県の回答率と比較すると、「4年制大学」に通っている人が大幅に増加(+20.4ポイント)。

仕事

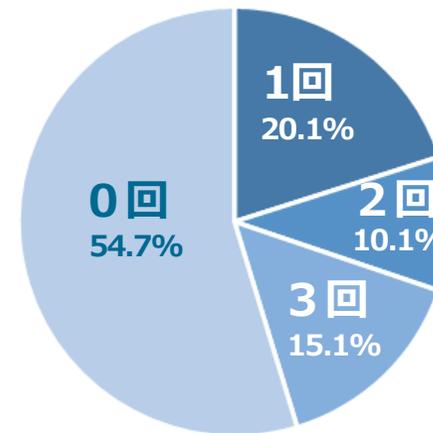


■ 現在働いている 72.5%

■ 働き方



■ 転職の経験

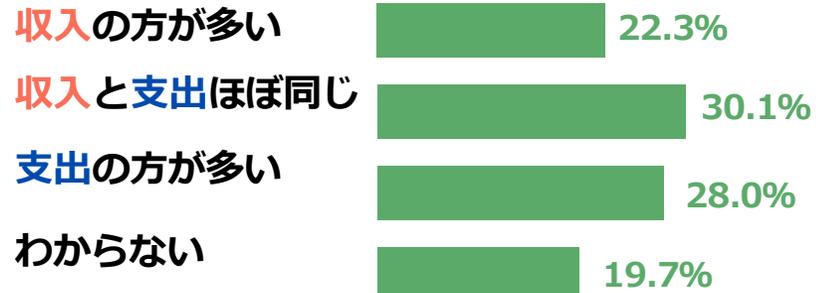


転職理由 TOP3

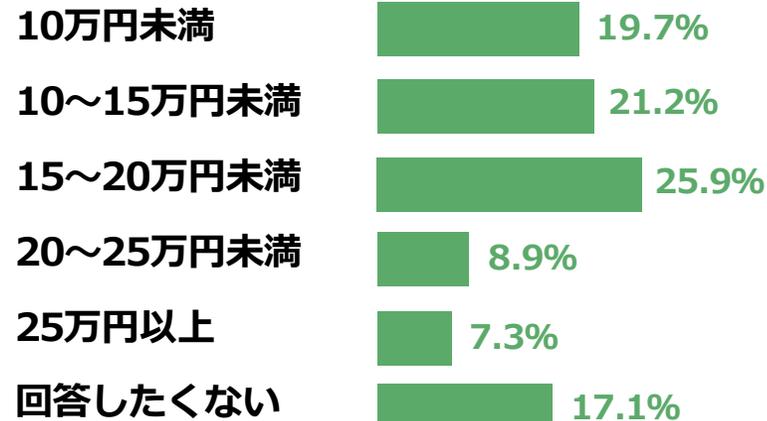
- 1位 業務が合わない
- 2位 人間関係
- 3位 給料が安かった

4割以上が転職を経験。過去5年以内に3回以上転職した人も1割以上いる。

■ 収入と支出のバランス



■ 毎月の収入



収支バランスと月収の関係は、月収が10万円未満では「支出の方が多い」（赤字）と回答した人が多い。月収が15万円以上20万円未満になると、「収入と支出はほとんど同じくらい」との回答が多くなる。

■ 貯金がある 39.4%

『2020年全国調査』の熊本県の回答率と比較すると、貯金があるという回答がやや少ない(△6.8ポイント)。



■ ローンや借金がある 8.8%

『2020年全国調査』の熊本県の回答率と比較すると、「ローン・借金がある」という回答が大幅に減少(△26.4ポイント)。

ローンや借金の理由

- 一時的な出費があつて借金をした 64.7%
- 日常的な生活費が足りずに借金をした 41.2%
- 金銭管理が苦手な借金をした 17.6%



健康

■からだの健康状態

-  健康 81.3%
-  通院している 13.0%
-  通院していないが体調が悪い 5.7%

■こころの健康状態

-  健康 77.7%
-  通院している 9.8%
-  通院していないが体調が悪い 8.8%

からだやこころの健康状態については、女性の方が不調と回答する人が多い。

■通院できなかった 19.7%

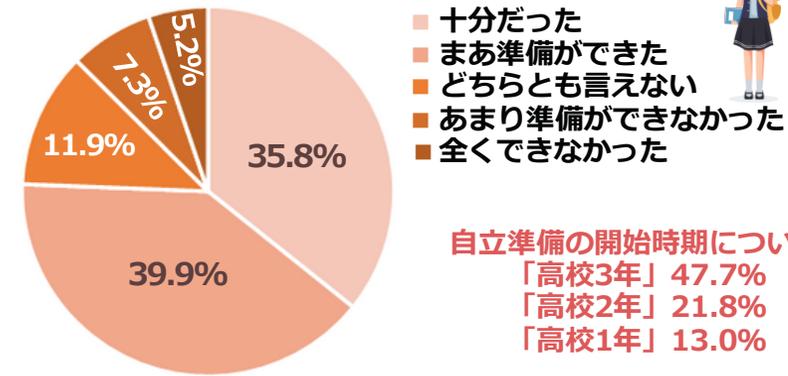
理由TOP3

-  ① お金がかかる 71.1%
-  ② 時間がない 44.7%
-  ③ 適切な病院がわからない 15.8%

過去1年間で、病院や歯医者に行きたいのに行けなかった人が2割程度いた。家計の収支バランスで赤字(支出が多い)と回答した人は、病院へ行けなかったと回答した人が多い。

自立準備

■自立準備の満足度



- 十分だった
- まあ準備ができた
- どちらとも言えない
- あまり準備ができなかった
- 全くできなかった



自立準備の開始時期について
「高校3年」47.7%
「高校2年」21.8%
「高校1年」13.0%

自立の準備を開始した時期については「ちょうどよかった」が半数以上。

■自立支援の内容

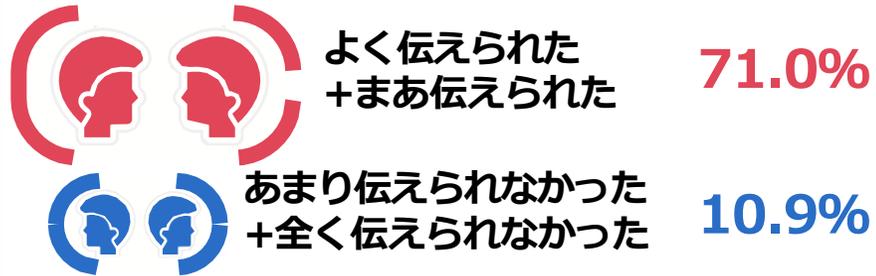
- 困りごとの相談先や相談方法 49.7%
- 退所後の住まい探し・同行 36.8%
- 家事の練習 36.3%
- 生活費のシミュレーション 34.2%
- 就職活動のサポート 25.9%
- 退所後の生活に関する冊子配布 25.9%
- 奨学金制度の案内 24.9%



『2020年全国調査』の熊本県の回答率と比較すると、「奨学金制度の案内」(+15ポイント)や「困りごとの相談先や相談方法」(+13.4ポイント)が増加。

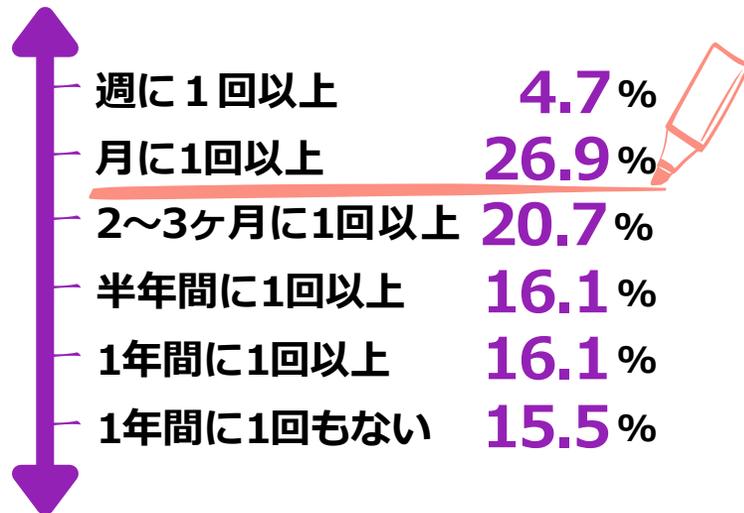
施設等とのつながり

■入所中の意思表示



施設等で生活している時、自分の将来について気持ちや希望は十分に伝えられたかとたずねたところ、7割の人が伝えられたと回答。

■退所後、施設等からの連絡頻度

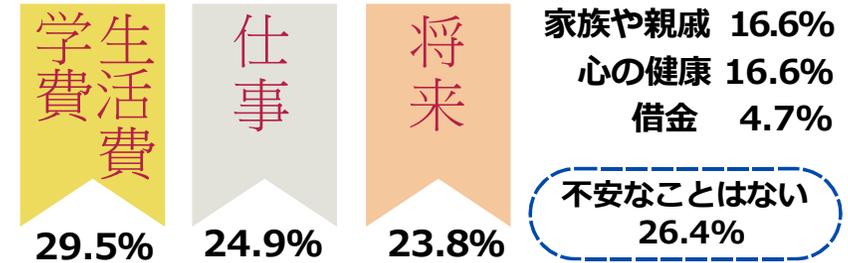


施設等からの連絡頻度については、8割以上が「ちょうどいい」と回答。

不安と支援



■不安なこと



『2020年全国調査』の熊本県の回答では「生活費や学費のこと」と「借金のこと」が全国よりも多かったが、今回の調査では、それぞれ△13.4ポイント、△14ポイント減った。

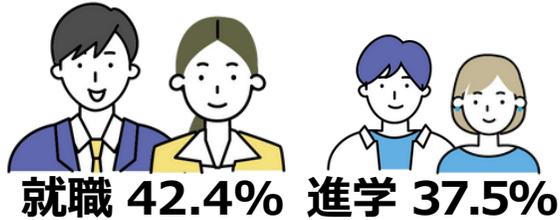
■退所後の支援



『2020年全国調査』の熊本県の回答率と比較すると、「とてもよかった」と「まあよかった」が大幅に増加。（+56.7ポイント）「利用したことがない」も大幅に減少（△16.2ポイント）し、施設等をはじめとするアフターケアが充実しつつある。

進路

■ 今後の進路予定



未定 16.7%
その他 3.5%

健康

■ からだの健康状態

- 😊 健康 82.6%
- 😞 通院している 13.9%
- 😖 通院していないが体調が悪い 4.2%

■ こころの健康状態

- 😊 健康 73.6%
- 😞 通院している 17.4%
- 😖 通院していないが体調が悪い 6.9%

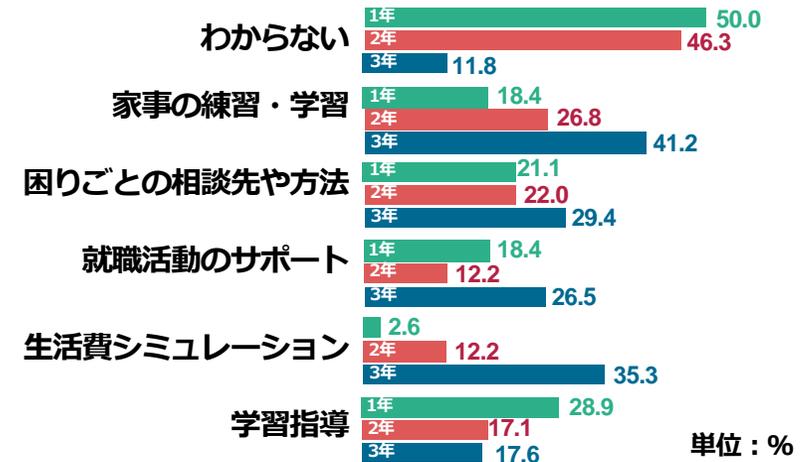
退所者調査と同じように、健康状態については、男性よりも、女性が不調と回答する人が多い。

自立準備



■ 自立支援の内容

高校1年 高校2年 高校3年



施設等で受けている自立支援の内容について高1・高2ではわからないという回答が多いが、学年が進むにつれて自立支援の内容は具体的になる。

■ 自立支援の評価



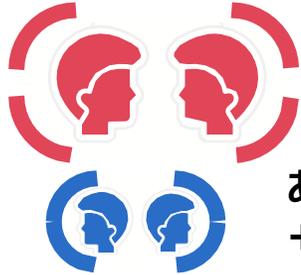
よかった
+まあよかった
68.7%

あまりよくなかった
+よくなかった
5.6%

約7割の人が、施設等で受けている自立支援は有効だと思うと回答

施設等とのかかわり

意思表示



よく伝えている
+まあ伝えている **68.7%**

あまり伝えられない
+全く伝えられない **12.5%**

自分の将来、自分の気持ちや希望は十分に伝えられていますかという質問には、7割弱が意思表示はできていると回答。

職員との信頼関係

- 十分に信頼できる
- まあ信頼できる
- どちらとも言えない
- あまり信頼できない
- 全く信頼できない

意思表示

単位：%

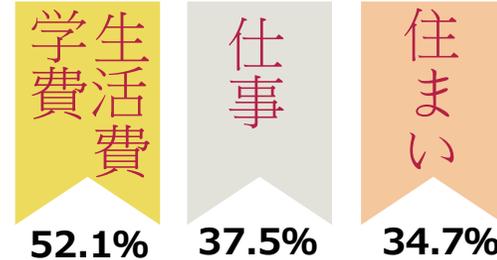


自分の意思を「よく伝えている」と回答した人は、施設職員や里親を「十分に信頼できる」との回答が多い。意思をよく伝えている人は、施設職員や里親を信頼していると考えられる、

不安と相談



不安なこと



将来 29.9%
人間関係 27.8%
家族や親族 25.0%

相談相手

施設等以外の友人 45.8%
施設等で生活したことのある友人 34.0%
きょうだい 30.6%
親 29.9%
施設の職員 28.5%



心理的障壁

結婚・恋愛・友人・職場について



「自分の生き立ちを考えて、結婚、恋愛、友人、職場において後ろ向きな気持ちになることがありますか」という質問には、4割以上が心理的障壁を感じていると回答。

提言・今後の展望

本調査では、学識経験者、障害者支援、就労支援、心理、社会的養護経験者で構成される連絡協議会を立ち上げ、6名の委員で議論を重ねました。本調査の結果を受けて、連絡協議会より大きく3点の提言をしました。

- ①本調査で得られた結果をもとに、具体的な自立支援の手法等を行政や施設等で議論するなどして、県内共通の自立支援の仕組みづくりを行うこと
- ②定期的に自立支援の現状把握を行い、検証機能を継続していくこと
- ③調査に回答しなかった(できなかった)者に
焦点を当てて求められる支援像を検討すること

2023年度熊本県社会的養護自立支援実態把握事業の概要

【事業主体】

熊本県・熊本市

【事業目的】

社会的養護経験者等の支援ニーズ等を把握するための実態調査やヒアリングを実施し、熊本県内の社会的養護経験者等の実情を把握し今後の自立支援の推進に向けた取り組みを検討する。

【調査対象の施設等】

児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設、里親、ファミリーホーム、自立援助ホーム

【実施した調査】

- ①退所者調査：調査対象施設を措置解除された本人記入調査
- ②入所者調査：調査対象施設に措置入所中の本人記入調査
- ③ヒアリング調査：調査対象施設を措置解除された本人面接聴取調査
- ④施設等調査：調査対象施設の自立支援担当者記入調査

2023

KUMAMOTO

2020年に実施された三菱UFJリサーチ&コンサルティングが報告した『児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査』との比較

- 退所直後の進路で進学が増加
- 4年制大学に通っている者が大幅に増加
- ローンや借金があるとの回答が大幅に減少
- 措置中の自立支援の内容では、
奨学金制度の案内や困りごとの相談先や相談方法の周知が増加
- アフターケアの評価では、良かったという回答が大幅に増加
- アフターケアを利用したことがないという回答も大幅に減少

月収（給料・奨学金・年金などおおよその手取り額）をたずねました。
収支バランスと月収の関連をみると、
月収が10万円未満では「支出の方が多い」（赤字）との回答が多く、
月収が15万円以上20万円未満になると「収入と支出はほとんど同じくらい」
との回答が多い。
月収以外にも、以下のような項目で収支バランスと関連がみられる。

- 性別、現在の雇用形態、住まいの形態に差がみられる
- 収支が赤字だと、病気の際に通院したくてもできなかったという回答が多い
- 収支が黒字だと、不安なことはないという回答が多い

退所者調査：調査対象施設等を措置解除された本人記入調査。調査内容は、現在の就労と進学、家計と収入、健康状態と通院状況、施設等とのかかわり、退所前の自立支援、悩みと将来の支援ニーズなど、9項目45問。回答者193件／調査対象者531件（回答率36.3%）

入所者調査では、「自分の将来、自分の気持ちや希望は十分に伝えられていますか」と入所中の意思表示についてたずねました。

7割近くの回答者が、意思が伝えられているという回答でした。

意思表示ができると回答した者は、

“意思が尊重されている” “職員等は信頼できる”と回答する傾向がある。

また、「将来への意識」を把握するために、ブリッジフォースマイルの『社会的インパクト調査』の調査項目でもある6項目（生計を立てること、所持金の把握、働くこと、社会マナー、情報リテラシー、将来への希望感）を問う。

入所中の意思表示と将来への意識6項目の関連は強く、意思表示ができると回答した者は将来への意識がポジティブな傾向になりました。

意思表示が行えることは、自己効力感を養うことにつながるのではないか

入所者調査：調査対象施設等に措置入所中の本人記入調査。調査内容は、現在の状況、施設等とのかかわり、自立の準備、悩みと将来の支援ニーズなど、7項目32問。回答者144件／調査対象者216件（回答率66.7%）

子どもの権利条約【1989年】

生きる権利



衣食住があり適切な医療を受けられるなど、命が守られ、健康かつ人間らしい生活を送ること。

育つ権利



教育を受け、遊んだり休んだりして、自分らしく育つことができること。

守られる権利



あらゆる暴力・虐待・搾取から守られること。

参加する権利



子どもの意思が尊重され、自由に意見を表したり活動を行ったりできること。

日本が批准したのは1994年（158番目）
※現在196か国が批准

「子どもアドボカシー」

子どもの声を丁寧に聴いて
子どもが意見を表明する支援を行う活動。

「子どもアドボケイト」

子どもの声を聴き、支援をする人です。
子どもの年齢や発達に合わせて、子どもに意見を言う権利があることを伝え、
自分の意見をどう言葉にして、どのように伝えたいのかをフォローする人。



対話

相互理解と関係性構築

Nothing about us
without us

私たちのことを
私たち抜きで決めないで

アドボカシーとは単に子どもの願いを
かなえることではなく、**対話**を重ねていくこと。

困っている子どもに気づき、声にならない声を聴き取ろう。
子どもが話したいと思ってくれたら、ゆっくりしっかり聴いて、
どうしたらいいか

一緒に考え、悩み、答えを探して行動すること。

聞く

意識しないで、音として
耳を傾ける

Hear

聴く

相手の事を五感で感じる
立場や想いを理解する

Listen

訊く

尋ねて、答えを探す
疑問を明確化する

Ask

コミュニケーションで大切なこと

相手の話がよく分かる

傾 聴

その話の背景にある**相手の思い**が分かる

受 容

何でも受け入れる
ことではない

相手の思いが私に届いていることが
相手に伝え返す

共 感

対話を続けること
(子どもの最善の利益)

子どもアドボカシー学会

第3回学会研究大会2024

KUMAMOTO

8月24日(土)～25日(日) 一部Zoom配信

<大会企画シンポジウム> 独立アドボカシーの独立性とは



金山 さよ
社会的養護経験者
学会認定アドボケート
子どもアドボカシーセンター広島



西川 健一
精神保健福祉士



水島 俊彦
日本憲法決定支援ネットワーク
SDM-Japan副代表理事・弁護士



堀 正嗣
熊本学園大学



コーディネーター
吉池 毅志
大阪人間科学大学

子どもアドボカシー入門セミナー

子どもアドボカシーとは？/意見表明等支援事業の進め方 詳細要旨

ユース
企画

<大会企画シンポジウム>

「ユース×おとなではなく、どちらかという人として」
～若者と多世代で子どもアドボカシーを考える～

多世代トーク



平川 きりか
大学生



梅津 奈々
大会実行委員
全国子どもアドボカシー協議会
こわ小委員



西村 朱美
テレビ朝日「おとなと子ども」編集
子どもアドボカシー



菊池 操
一般社団法人アマヤドリ
代表理事



坂口 明夫
こども家庭支援センター
あまぎやま

会場:熊本学園大学 (熊本市中央区大江2丁目5番1号)

申込・最新情報は学会HPより(QRコードからも読み込めます)
<https://adv-kenkyukai.jimdofree.com/>



主催: 子どもアドボカシー学会第3回研究大会実行委員会/後援: 熊本県・熊本市

	学会会員 事前/当日	非会員 事前/当日
参加費 (対面)	3,000円/4,000円	5,000円/6,000円
参加費 (オンライン)	3,000円	5,000円

※ユース(29歳以下)または学生の方:対面・オンラインとも無料
※1日目17:30-情報交換会を予定しております(詳細近日公開)



プログラム詳細

1日目	第1会場 (高橋守雄記念ホール)	第2会場 (14号館1411)
13:30~15:00	配信 子どもアドボカシー入門セミナー① 「子どもアドボカシーって?」	自由研究報告①
15:15~17:00	配信 大会企画シンポジウムI <ユース企画> 『ユース×おとなではなく、どちらかという人として』 ～若者と多世代で子どもアドボカシーを考える～	
17:30~19:30	情報交換会	
2日目	第1会場 (高橋守雄記念ホール)	第2会場 (14号館1411)
9:30~11:00	配信 子どもアドボカシー入門セミナー② 「意見表明等支援事業の進め方」	自由研究報告②
11:10~12:00	配信 子どもアドボカシーセンター 交流会	ポスター発表/交流会
13:00~15:30	大会企画シンポジウム2 「独立アドボカシーの独立性とは」	

子どもアドボカシー入門セミナー

「子どもアドボカシーって何?」「各自治体ではどうしている?」
子どもアドボカシーの基本がわかる入門編セミナー!どなたでもご参加いただけます

①子どもアドボカシーとは?

子どもアドボカシーの基本を学ぶ入門編のセミナー
諸外国の取り組み/これまでの経緯/理念と原則...など



堀 正嗣
熊本学園大学



奥村 仁美
子どもアドボカシーセンター OSAKA
代表理事

②意見表明等支援事業の進め方

東京・福岡・熊本の実践団体・自治体・児童相談所の担当者による
意見表明等支援事業の現状や課題についてのパネルディスカッション



川瀬 信一
一般社団法人
子どもの権利を促すためのよう
こどもアドボカシーセンター



朝日 響
子どもアドボカシーセンター福岡
事務局(福岡市中央区)



山下 祈恵
認定NPO法人トナリゼミ
子どもアドボカシーセンター福岡
事務局(福岡市中央区)



各自治体・
児童相談所職員

情報交換会

みんなで話ろう!

会場: 7号館1階
会員: 2,500円
非会員: 3,500円
ユースまたは学生の方: 2,000円

ポワを行くモン!
17:30-18:00(予定)



©2010熊本県くまモン

申し込みにあたっての注意点

- ・ 会員料金は「個人会員」のみの適用となります。団体会員の方は非会員料金となります。
- ・ 情報交換会には対面参加者のみ申込み可能です。
- ・ 空きがある場合のみ当日参加も受け付けます。状況は学会ホームページを随時ご確認ください。(現金支払いのみ)
- ・ 当日を過ぎたのプログラム・情報交換会含むキャンセル料は返金ができませんのでご了承ください。